

2021 度 自己点検・自己評価公表シート

エクレスすみれ保育園

1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の4つのつばさを育てることを教育・保育方針とする。

そのために次の項目を保育目標とする。

- ①わくわく どきどき を楽しむ子
- ②心を豊かに 思い合える子
- ③できる！ できた！ を感じる子

2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2 歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計る。
- ・個を大切にしながら、自立の発達を促す教育と保育を進める。
- ・遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む
- ・義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

3. 学年別目標・計画

0 歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1 歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2 歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 保育目標の理解と周知 保育理念、保育方針、保育目標について、保育士間の共通理解ができているか	概ね職員の理解があり進められてきたと感じる。学園の教育テーマは週に一度、朝礼での唱和を行うことで共通理解が得られている。本年度もコロナ禍でのスタートとなり、規制される行動も多かった分、本来行うべき「楽しい教育」を行う上で保育目標を念頭に見直すことが必要なこともあった。今後は保育目標も唱和に入れ、共通理解に努めたい
2. 保育内容 保育所保育指針の理解、指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができているか	「保育 WEB」を活用することで、園児の興味や関心を職員で共有することができた。特に戸外活動においては子どもの「今」を見つめ、活動を予測することで活動や遊びの準備、発展が得られた。クラス会議では情報を共有し、明日からの保育の見通しを考え、保育を進められることができた。今後はリズムなどのリズム遊びを意識的に行えるよう計画し、実行できるようにしていく
3. 保育環境 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができているか	園内研修を通して、保育環境の大切さを伝え考える時間があつたこと、また、延長保育時の活動を見直すことで一人一人が環境を意識する年であった。保育士一人ひとりが場を任されることで、昨年度よりも保育環境に意識を持ち、改善意識がでていた。個人差に偏りはあるので、これからも役割やクラスでのルールを決め、統一的な意識の元、環境への取り組みを行っていききたい
4. 行事 ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA 体制をとっているか	本年度もコロナ禍により、今まで通りの行事を行うことができなかったが、「何のための行事か」を見直す機会が多くあった。特に保護者との共有をどの様に行うかという視点では「ねらい」に立ち戻り、一つひとつを考えることが出来た。概ね共通理解のもと新たな視点で行事を行えることができた。
5. 食育 保育の一部となるような活動を行っているか	昨年に引き続き、コロナ禍の為、できること、できないことに難しさを感じた。感染症対策を踏まえ、子どもたちが手に触れ、調理した食材を食べることが出来ず、代替品を提供することで調理の機械を作った。畑での作物は持ち帰りとした。また、0歳児の食事のみマウスガード・フェイスシールドをしての食事介助を行うことができた
6. 職員の役割・資質向上 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の職員との連携はできているか	園外の研修には、本年度もほとんど行くことが出来なかった。園内研修での意見交換、計画的な実施訓練練習（エビペン、嘔吐処理など）モンテッソーリ教育の勉強会など、自分たちでできる範囲で知識を互いに深め伝え合うことを行うことで質への担保ができた。また、ピアノ技術の向上の為、ストリートピアノを年間通して行い、計画的に練習、発表を行い苦手意識をなくすことに取り組んだ。
7. 特別支援教育 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができているか	本年度、当該園児なし。 しかし、個人の各々の情報の共有については、共通理解のもと一人ひとりの支援体制を話しあう場をクラス会議で整えることができた。保護者への共通理解を深めるため、主任との面談を行うことがあった。また、療育センターの巡回訪問を行った。外部研修に参加することはほとんどできなかった。

評価項目	取り組み状況
8. 保健・安全指導 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができているか	避難訓練は計画に基づいて実施することができた。 また、消火訓練と同時に病院へのかかり方、エピペン・ダイアップの使用方法などより実践に近い訓練や学びの機会を多く設けた。 アレルギー対応については、昨年度の見直しからヒューマンエラー防止に努めることができた。アレルギーに対しての職員への意識改革は研修を介して行うことができた。
9. 保護者との連携・情報 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り組むことができた。 園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして情報を職員間の共有を図ることができた。また、改善が必要なことに関しても、迅速に行うことができた。 保護者への行事参加については、ほとんど行うことができなかったが週に一度、クラスごとにドキュメンテーションを作成して掲示することで保護者へ子どもたちの様子を発信することができ、そこから会話や理解に繋がった。また、メール配信・ブログ等での発信を行い、YouTubeでの動画配信を行うことで、保護者からの一定の評価を得た。
10. 子育て支援 子育て支援の取り組み、子育ての相談としての機関の実施ができているか	コロナ禍のため、地域の方が参加できるイベントを行うことができなかった。YouTube で園舎紹介、近隣の公園紹介など、WEB を通しての発信を多く行う。また、戸外で近隣の方にすれ違う際は、全職員が挨拶することを意識し実施することで、今後、子育て支援策が実施される際、近隣の方々が安心して集まれる場所があることの存在を知って頂くことに取り組んでいる。
11. 組織としての運営管理 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができているか 経験に応じた保育士の連携が取れているか	会議や勉強会の人数を制限して短い時間で行った。役割別会議では、職員の経験年数に応じてファシリテーターを決め、発言の機会を設けたことで一人ひとりが役割を意識して会議に臨むことができた。今後も工夫しながら「組織」を踏まえた取り組みに取り組んでいく。
12. 特徴的な教育 系列園との連携はできているか 部門を超えての関わりを持っているか	本年度はコロナ禍で実施を行うことは難しかった。今後は他の部署への理解を深め、なにかしらの交流をすることで連携を図りたい。特に幼児教育部門間での交流は今後の園児獲得に向けて、必要不可欠なものとなるので、職員間が互い連携をに取れる環境を考えていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 保育環境	モンテッソーリ環境の見直し こどもが「自分で」を引き出せる環境設定
2. 行事	子どもにとって、保護者にとつての「最善の利益」を考え、計画、実行していく
3. 食育	感染症対策を踏まえつつ、行えることを模索し、実行していく
4. 職員の役割・資質向上	外部、園内研修に力を入れ資質向上に努める
5. 保健・安全指導	保育園内での感染症対策の強化に努めること
6. 保護者との連携・情報	コロナ禍を視野にしながら、互い共有できるたくさんの発信を行っていく
7. 組織としての運営管理	自己発揮ができる職場環境 組織人としての在り方と取り組み

2022 年 2 月 18 日